【大友親繁書状写】

ふとなたへ御入
候ハヽ、かさねて
きつき方へ状を
つかわしたく候、
やかて〳〵此方へ
御入候へく候、
きつきつかいニ
御こへ候事、喜
存候処、き方の
御返事をまち
候や、いまほとハ
なにとも申つ
うせす候、いかにも
彼方へ御よりあ
い候て、さいそくある
へく候、又それまて
御こへ候よし承候
ところニ、こなた
ゑ御こへ候ハす候、
心もとなく候、人
のうろんニ候する事
ハ、き方のおつと
なるましく候、
すへて〳〵くるしく
からす候、たれしも
こなたへとうかん
あるましく候へ共、
とりハけきつき
事ハ、心中かわ
らしと存候、御よ
り候ハヽ、とく〳〵此
方へ御こへ候する事
喜入候、おほせある
へく候、恐々謹言、

八月廿五日　親繁（花押影）

わかはやし入と殿